

目的 暖色系の色は暖かいイメージを与え、寒色系の色が冷たいイメージを与えるように、色は視覚以外の感覚にもさまざまな作用を与え、この作用は色の共感覚的效果として知られている。本研究では、比較的明確な共感覚的作用をもつ単色あるいは2色以上の配色を選択し、これらの色の与える共感覚的作用が提示形態（円形と被服スタイル）によってどのように異なるかを測定した。

方法 5項目の共感覚的作用、「活動的」、「ハイセンス」、「重量感」、「安定感」、「派手」を与える単色あるいは2色以上の配色を取り上げ、各項目について、もっともその作用の強い色あるいは色の組み合わせから、もっともその作用が弱いと考えられる色あるいは色の組み合わせまで5種の提示試料（円形および被服スタイル）を作成した。各項目の円形、被服スタイル別にそれぞれ5種の試料の共感覚的作用の強さにしたがって順位づけを行い、ケンドールの一致性の係数（ W ）を算出した。また、各対象者による円形と被服スタイルについての順位づけの関連性は、スピアマンの順位相関係数（ r_s ）によって検討した。

結果 「活動的」、「重量感」、「派手」の共感覚的作用については、円形、被服スタイルともに W が比較的大きな値を示し、一致した判定が行われていることがわかった。「安定感」については、両者とも W は小さく、「ハイセンス」については、円形では小さく、被服スタイルでは比較的大きな値を示した。各対象者による円形と被服スタイルの順位づけの相関（ r_s ）もほぼ同じ傾向を示し、「活動的」、「重量感」、「派手」が大きく、「ハイセンス」、「安定感」は比較的小さい結果を与えた。